

2008.7.16

第63回 日本消化器外科学会総会

CDDP 腹腔内投与とソフィβ-グルカン経口投与との併用療法による抗腫瘍効果の検討

溝渕 俊二¹⁾, 谷脇 千穂²⁾, 渡部 嘉哉²⁾, 笹栗 志朗³⁾

(高知大学臨床看護学¹⁾, (株)ソフィ・研究開発部²⁾, 高知大学第2外科³⁾)

【はじめに】正常マウスの化学療法時にAureobasidium pullulans 由来の水溶性β-1,3-1,6-グルカンを経口投与するとNK活性の低下が抑制された。今回は、腫瘍移植マウスに対する化学療法にグルカンを併用して、腫瘍に対する効果を検討した。【方法】グルカン経口投与の有無, CDDP 腹腔内投与有り (5mg/kg×1と×2の2群) と無しにより6群に分け検討した (I群:水+生食, II群:水+CDDP×1, III群:水+CDDP×2, IV群:グルカン+生食, V群:グルカン+CDDP×1, VI群:グルカン+CDDP×2, 各n=15)。グルカン投与群は, 5%グルカンを2週間自由給水させた後, 腫瘍細胞の移植を行った。S-180細胞をマウスの背部皮下に移植した翌日に, CDDPは腹腔内に, CDDP×2群では, 2日間連続投与した。評価は, 腫瘍のサイズを計測した。【結果】I群に比較して他の群では, 腫瘍の増殖が有意に抑制された。II群とV群の比較では, 12日目にV群の腫瘍サイズが, III群とVI群の比較では, 10日目にVI群が各々有意に小さかった (p<0.05, p<0.05)。【結語】ソフィβ-グルカン単独投与でも, 抗腫瘍効果があることが確認された。CDDPとグルカンの併用で, 抗腫瘍効果が増強されることが示唆された。